

# 佛心



親の呼び声

我れ称え 我れ聞くなれど 南無阿弥陀 つれて  
ゆくぞの 親の呼び声

これは原口針水和上という幕末から明治時代にかけて生きておられた真宗僧侶の詩です。

「我」とは私のことで、「南無阿弥陀」とはお念仏のことです。そしてこの「親」とは阿弥陀如来のことです。つまりは、念仏を称えているのはこの私自身だが、その念仏はまるで母親もしくは父親が我が子に「ここにいますよ。安心してね。」とやさしく呼びかけてくれるようなものであると読み取れることができます。

私はこの歌を聞く度に、阿弥陀如来という仏様は、なにか絶対的な力強い仏さまというよりは、私たちに常に寄り添い、慈しみを常に抱いてくれるなんとも優しい仏様だなーと感じずにはいられません。

そのような仏様に私たちが手を合わせるご縁をいただく背景はそれぞれだと思います。例え

二〇二一年五月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会

ば私の場合ですと、一緒に暮らしていた祖母の往生を看取ったのが大きなご縁でした。

病室で危篤状態の祖母へ何と声をかけたらいよいよのか分からな

ま時間だけが過ぎていきました。そのとき祖父がすこし遅れて病院につきました。祖母の手を握ると一言「ご苦労じやつたな。南無阿弥陀仏」と念仏を申していました。周りは「爺ちゃんそれだけでいいの？」と聞きました。祖父は「あとは阿弥陀様にお任せします。」と言つてまた念仏を申していました。

それは阿弥陀如来の本願を依り所とし、全てを任せて安心している姿であったように思います。その祖父の背中では歳を重ねてだんだん丸く小さくなっておりましたが、阿弥陀如来のお慈悲にしっかりと支えられているように感じたのを今でも思い出します。

このように誰かを失うことをご縁として念仏に出遇う人も多いのではないのでしょうか。しかし最近では、この仏縁をくれるのは亡き人だけではないとも感じるので。例えば、私事ですが本堂で手を合わせていると日本で離れて暮らす家族のことを最近思い出します。

もうここ四年間ほど一時帰国もしていない親不孝者ですけども、たまに電話をしますとそんな私にも「元気にしちよんの？」「ちゃんとご飯を食べちよるん？」と心配をしてくれます。こうやって親と話していると幼少期のことをたまたま思い出すことがあります。実家がお寺であつたこともあり、毎朝六時と夕方六時半、そ

して就寝前に必ず家族そろって正信偈や重誓偈のお勤めをしていました。しかし、まだ字が読めないくらい幼かった私は、よく母の膝上で居眠りをしていました。母親の念仏は心地が良くいい子守唄になっていたのだと思います。そして今もこうして念仏を称える身になつて居るのは、そうした居眠りをしながらもかすかに見えていた父と祖父の仏様へ手を合わせる背中を後ろから見ていたからだと思います。

そういえば最近、日本の小学生から高校生の夢についてのアンケートを取ったニュースを見たのですが、結果はなんと一位が会社員でした。私が小中学生だったときは「プロ野球」や「消防士」などがだいたいの一位だったと思います。しかし最近では、コロナの影響で在宅勤務をする会社員が増えて、子ども達が親の仕事をしている姿をよく目にするようになったのが大きな要因だそうです。

昔から「子は親の背中を見て育つ」と言いますが、まさにその通りだとそのニュースから考えさせられました。そのようなことを考えていると私も小さいときから仏様に手を合わせる家族の背中を見て、それが仏縁となつていま念仏をしているのかもしれない。

そのような親の念仏する姿や合掌している背中を思い出すとこれまでお世話になつたことや迷惑をかけたことなどの記憶がよみがえってきます。そのような思い出にふけますと「いまも元気で過ごしちよんやろうか？」と心配になったり、「このコロナ禍でも安全に安心して健康で過ごしちよって欲しいな」と親の安全を願うわけです。

ある日、こういった話しをお世話になつてゐる先生に話しますと、その先生から「大内君、大事なことは、願うより先に願われていたことに気がつくことだよ」と言われました。

例えば、私が親に対して健康でいて欲しいと願うより前に、親というのは、私がかまだお腹の中にいて生まれるより前から、この子には大きな怪我や病気がなく、すくすく伸び伸びと育って欲しいと既に私のために願つておつたということ

です。  
そしてそれは今でも電話をすれば「大丈夫か？」「元気にしちよんか？」と私のことを心配し、願つてくれている存在でもあります。そのため、この手を合わす時々、遠く離れて暮らしている家族のことを思い出すわけです。そしてそれは私ひとりの体験ではないと思います。多くの人が手を合せて念仏を申すとき、仏さまの恩徳を感じるとともに大切な人の顔も思い浮かぶことがあるのではないのでしょうか。

では、そんな大切な人たちからいただいたご縁によつて出遇わせてもらった阿彌陀如来とはいつたどのような仏様なのか？それを何とも味わい深く詠つて下さつたのが、冒頭で紹介させて頂いた、きました原口針水和尚の

「我れ称え我れ聞くなれど南無阿彌陀つれてゆくぞの親の呼び声」でございませす。

私の口からこぼれ出てくる南無阿彌陀仏。そして私の耳に届いてくる南無阿彌陀仏。そのどちらのお念仏も阿彌陀如来の「安心して全てを任せなさい。必ずあなたも私の浄土へ迎え入れる」という呼び声であつた。そして、その呼び声は、まるで親が我が子の身を案じて願つてゐる相であるとも言えましよう。

昔の人もしくは今でも地方のお寺に行きますと、御門徒さんたちが阿彌陀如来のことを「親様」と呼んでいることがあります。それは私の事を常に気にかけてくれる仏様への忝さと、私が阿彌陀如来のひとりの子として念仏申させてもらつているという親しみを込めて「親様」と呼んでいるようです。

その親様とも阿彌陀如来とも呼ばれる仏様は「南無阿彌陀仏」の念仏となつて私の悲しみにも歓びにも慈しみ、はたらかかけてくれます。それはまるで真西に沈む太陽のように眩しくも温かく私を照らし包み込んでくれる仏様だと本日は味合わせさせて頂きました。合掌

カナダ開教使 大内祐真

## 日本語法要のご案内

毎月第一と第三の日曜日（午後一時より）日本語での日曜法座をZoom配信にて行っております。ご参拝を希望される方は、トロント仏教会の事務所 [tbc@tbc.on.ca](mailto:tbc@tbc.on.ca) まで参拝希望の旨をメールしていただければ、アナウンスメントと一緒にzoomのリンクを送らせていただきます。

※zoomリンクは英語法座と同じものを使用しています。時間帯が異なるだけですので、日英両法座の参拝を希望される方も同じリンク先を使用してください。

## 宗祖降誕会

生まれになられました。

浄土真宗の宗祖である親鸞聖人は、平安時代の末、承安3（1173）年5月21日に京都の日野の里（現・京都市醍醐）にてお

5月16日（日）

午前11時より（英語）

午後1時より（日本語）

生まれになられました。

浄土真宗の宗祖である親鸞聖人は、

平安時代の末、承安3（1173）年

5月21日に京都の日野の里（現・京

都市醍醐）にてお

親鸞聖人のご誕生を

トロント仏教会と一緒に

お祝い申し上げます。



## 帰命無量寿如来 南無不可思議光

「限らない命の如来に帰命し、思いはかることのできない光の如来に帰依したまつる。」

最近、社会の中で、自分だけの秘密の場所を持つ人が増えていくと聞いたことがあります。

そこは、「屋根の排気口の裏側」とか「資料室の横の非常階段の踊り場」とか、要するに普段めったに人の来ない所に逃げ隠れては、なんとかして自分を保とうとされるのでしょうか。

自分と自分の周りのゴツゴツした関係の中にいる私たちは、自分はどういう立場なのか考え、自分はどうか対処すればよいのかに追われています。相手のことを考えてじやいるもの、それに対して自分はどうあるべきかが常に問われます。社会では、「自己を確立する」ことが求められ、それにつかれた人たちは「自分を見失っている」と悩み、「もつと自分を大切にしなければ」と忠告されます。そこにあるのは「自分は・・・」「自分は・・・」ばかりです。

確かに「自分」は大切ではあるのですが、かといって、「自分」とはそんなに大したものなのでしょうか？

ここでの「限らない命」(無量寿)や「思いはかることのできない光」(不可思議光)とは、自分を越えた「大いなるもの」「限らないもの」というところから見れば「自分」とは、いくつかの要素がより集まって「たまたま形成されたもの」に他ならず、「自分の分」を受け持っているだけに過ぎないのではないのでしょうか？

にもかかわらず、「自己自身」とか「我」とかにこだわって、それを抛りどころとしているのが私たちです。その「自分」を投げ出して大いなるものに包まれていく、それが「帰命する」「帰依する」ということです。

しかも「大いなるもの」に包まれてみれば、自分の力で自分を投げ出したのではなく、それは、「大いなるもの」からのほたらきかけがあつてこそ成立したことと言わざるを得ないのです。

「大いなるもの」は、人間を超えているわけですから、もともと私の心の内にあつたものではありません。けれども、私の外にはあつても私を離れてあるものではなく、常に私の内にはたらいってくるからこそ「大いなるもの」といえるのであり、私のところに来るものだから「如来」というのです。

『ひらがらな正信偈』森田真円より

# カナダ教団婦人会 ワークショップのお知らせ

トロント仏教に駐在している大内祐真氏が、浄土真宗本願寺派における勤式（荘厳、読経、儀礼作法など）を3回にわたってレクチャーします。

## 第二回：お仏壇とお供えもの（5月16日）



最近ではここカナダでも新たにお仏壇を安置される方が増えています。しかし、安置しても仏壇荘厳の正しいやり方が分からない人も多いようです。また、お供え物に対しての質問も多く寄せられます。そのため第二回では、お仏壇における荘厳のやり方とその荘厳のもつ意味、そしてお供えものの説明を加えてワークショップを行います。

## 第三回：読経と偈頌



仏事儀礼において欠かしてはならないのが、経典を読むこと（読経）や偈文を読むこと（偈頌）です。浄土真宗本願寺派でも法要時には、浄土三部経と多くの偈文を読みます。そしてそれらには博士という音階があり、それぞれの経や偈文がなんとも味わい深い儀礼空間を作り出します。第三回目は、実際にお経や偈文を称えながらワークショップを行います。

※第2回は、5月16日の午後7時からZoom配信にて予定しております。ご参加を希望される方は、Darlene Rieger : [darlene.rieger28@gmail.com](mailto:darlene.rieger28@gmail.com) までお問合せ下さい。

## キッズサンガからのお知らせ



この度、トロント仏教ではキッズサンガ(子ども会)をオンラインで再開することとなりました。

毎月第4日曜日の午前9:45からzoomにて法要をはじめ、そのあと親子で参加できるワークショップなどを開きます。

※法要ならびにワークショップは英語で行います。

ご参加を希望される方は、[kids.sanghatbc@gmail.com](mailto:kids.sanghatbc@gmail.com) までご一報ください。

キッズサンガグループよりZoomリンクを送らせていただきます。